

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	前年度は、授業と家庭学習の効果的なつながりをテーマとして研究を進めた。具体的には、独自の自学ノートである「かけはしノート」を作成し、その取り組みを進める中で課題を整理してより良い改善を図った。その結果、「先生はわかりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と答えた生徒が93.3%であった。また、「この学校でたくさんを学び、成長している」と答えた生徒は86.1%（昨年比4.7%向上）、「自他を尊重する気持ちが育ってきた」と答えた保護者は75.6%（昨年比9.6%向上）であった。これは一人ひとりの個に応じた指導と家庭との連携に加え、教育活動全体を通して取り組んだ各種行事や道徳教育の充実の成果と考える。今後も継続して取り組んでいく。
2	学校教育目標	夢に向かい主体的に学び、行動できる生徒の育成 ～夢・自信・チャレンジ三中～
3	本年度の重点目標	主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善と家庭学習をつなげる手立てを探る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成したという教師が70%以上	B	・マイプランの実践を通して学力向上に取り組む。さらに研究主任を中心に実践の振り返りや修正等を行い、より良い実践へとつなげる。	A	・全職員、学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標をもとに授業改善に取り組んだ。また、県学力調査結果の分析を教科部会で、今後の授業改善への手立てを図った。	・校内研究や教科部会の中で、共通理解を図りながら授業改善に取り組んだことで、マイプランの成果指標を達成できた。	A	・テストの結果からも生徒たちの頑張りや学校生活が安定していることがわかる。 ・計画的に各教科の授業がされており、生徒たちも理解していることがわかる。 ・日頃の取組みの成果が出ているので今後も期待したい。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員	
	○主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした授業づくりの実践	○先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫していると回答する生徒が80%を上回る。	B	・授業で「めあて」「まとめ」「ふり返り」の時間を確保は全職員共通理解を図り取り組んだ。 ・授業と家庭学習のつながりを深める手立てとして「かけはしノート」を活用している。記入する際は、内容の視点を教師側が示し、生徒に周知した。	A	・「先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と回答した生徒が93%で、目標を十分に達成できた。「かけはしノート」を活用しながら、生徒が主体的・対話的に学習に取り組む授業を展開することができた。	・3年生は100%、2年生は88%、1年生は90%と、どの学年も高い値を得ていることから生徒たちの学習意欲の向上が感じられる。 ・家庭からのアンケート結果からも、家庭学習時間の増加が学力向上へとつながっていることがわかる。	A	・道徳の授業を通して、生徒が成長できていると感じている生徒が平均86%以上のことから、先生方の生徒へのかわりが日頃より丁寧に行われていることがわかる。 ・道徳の授業を担当だけでなく、学年職員全員で行う取組は、生徒との関係構築にもつながる。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業が楽しい、自己の成長に役立つと思う生徒の割合を90%以上とする。	B	・学年職員全員で授業を行い道徳教育の充実を図る。 ・生徒の「出番」「役割」「承認」を大切にしたい学校行事や生徒会活動の充実や集会の内容の充実を図る。	A	・「道徳の授業が楽しい」75.7%、「自己の成長に役立つ」86.0%の回答であったことからおおむね目標は達成できたと思われる。学年職員全員で道徳授業を行うことで様々な見方考え方を示すことができた。またタブレット導入により、特別支援学級の生徒も交流学級の授業に参加できた。	・道徳の授業を通して、生徒が成長できていると感じている生徒が平均86%以上のことから、先生方の生徒へのかわりが日頃より丁寧に行われていることがわかる。 ・道徳の授業を担当だけでなく、学年職員全員で行う取組は、生徒との関係構築にもつながる。	A	・道徳の時間を通して、生徒が成長できていると感じている生徒が平均86%以上のことから、先生方の生徒へのかわりが日頃より丁寧に行われていることがわかる。 ・道徳の授業を担当だけでなく、学年職員全員で行う取組は、生徒との関係構築にもつながる。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・生徒指導主事 ・生徒会担当	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が90%を上回る。	B	・毎月いじめアンケートの実施をする。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する講演会を実施する。	B	・「学校が楽しい」と回答した生徒が88.8%であったことから、おおむね目標が達成でき、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができたと思われる。また、毎月いじめに関するアンケートでは、自分のことや友だちのことであったり、情報モラル講演会を実施したり、保護者へも啓発活動を行ったりと、情報モラルの意識向上を図った。	・問題行動、いじめ調査アンケートの結果から、生徒が安心・充実した学校生活を送っていることがわかる。 ・早期発見、対応することは問題解決へつながることであるから今後も願っていた。また、講師によるいじめ防止につながる講演や定期的な生徒指導通達の発行は大切である。	B	・問題行動、いじめ調査アンケートの結果から、生徒が安心・充実した学校生活を送っていることがわかる。 ・早期発見、対応することは問題解決へつながることであるから今後も願っていた。また、講師によるいじめ防止につながる講演や定期的な生徒指導通達の発行は大切である。	・人権・同和教育担当者 ・生徒指導主事 ・教育相談主任 ・情報教育担当	
	◎全職員による「心の講話」の実践	◎「心の講話」が自己の成長や夢につながったと思う生徒の割合が80%を上回る。 ○自問清掃の意義や考え方を生徒集会や職員研修で伝え、周知徹底をはかる。	◎「心の講話」が自己の成長や夢につながったと思う生徒の割合が80%を上回る。 ○自問清掃の取り組みにより、心の成長につながった。	B	・輪番にて、教職員が生徒の自己の成長や夢につながるような講話を実施する。 ・自問清掃の意義や考え方を生徒集会や職員研修で伝え、周知徹底をはかる。	A	・「心の講話」が生徒の成長や夢につながっていると思う生徒は86%であり、講話内容を今後の生活に生かそうとしていることがわかる。 ・自問清掃が心の成長につながっていると回答した生徒は80%と目標にはやや届かなかった。さらなる心の成長のために、職員に対する研修を充実させたい。	・教師の講話は、生徒にとっては心に伝わりやすい。今後も続けてほしい。 ・取組みの方向性は良い。自問清掃が生徒の心の成長へとつながるように今後も取り組んでほしい。	A	・教師の講話は、生徒にとっては心に伝わりやすい。今後も続けてほしい。 ・取組みの方向性は良い。自問清掃が生徒の心の成長へとつながるように今後も取り組んでほしい。	・清掃担当 ・生徒会担当 ・生徒指導主事
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上	B	・生徒会と連携し健康な体作り、食事の大切さを考え、実践と結びつける活動の実施。 ・生活部とタイアップして生活習慣のアンケートや自己の評価をし、PDCAサイクルができるようにする。 ・食育の大切さについて考える授業や学活に取り組む。 ・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。	B	・新旧生徒会で引継ぎをし、コロナ感染予防の対策を継続することができた。(体温チェック・換気・マスク・手洗い・手指消毒・加湿器・二酸化炭素探知機など) ・生活部と連携した取り組みで、遅刻者ゼロや時間を守ることに意識が高まり、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・新旧生徒会との連携を図り、残食0を目指して活動を行ったが、1年生における残食0の徹底には不足なところがあった。食育講話や生徒会の活動などを通して、今後も残食0を目指したい。 ・年間を通しての自転車事故の発生件数は、昨年度より減少した。来年度以降も交通講話等を通して、交通事故防止の注意喚起や運転マナーの向上を目指さなければならない。	・コロナ禍で活動が制限されるなか、十分な活動ができなかったと思うが、生徒会を中心に健全な生活環境の維持に努めることができたのではないかとと思う。 ・生徒会生活部の遅刻ゼロの取組は、生徒の朝の余裕をもった生活につながり、しいは落ち着いた学校生活につながることで、今後も続けてほしい。 ・「望ましい生活習慣」の形成と同時に「望ましい生活習慣」の形成は、生徒の安定した学校生活を送るための両輪である。 ・年間を通して交通事故防止のため、講話や事故防止の注意喚起を行うことは大切なことである。今後も続けてほしい。	B	・保健体育担当 ・保健主事 ・食育担当 ・教育相談主任 ・生徒指導主事		
	②「望ましい生活習慣の形成」	②毎月の成長目標の達成が80%以上		・毎月いじめアンケートの実施をする。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する講演会を実施する。		・毎月いじめアンケートの実施をする。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する講演会を実施する。	・「学校が楽しい」と回答した生徒が88.8%であったことから、おおむね目標が達成でき、多くの生徒が充実した学校生活を送ることができたと思われる。また、毎月いじめに関するアンケートでは、自分のことや友だちのことであったり、情報モラル講演会を実施したり、保護者へも啓発活動を行ったりと、情報モラルの意識向上を図った。	・問題行動、いじめ調査アンケートの結果から、生徒が安心・充実した学校生活を送っていることがわかる。 ・早期発見、対応することは問題解決へつながることであるから今後も願っていた。また、講師によるいじめ防止につながる講演や定期的な生徒指導通達の発行は大切である。	B	・問題行動、いじめ調査アンケートの結果から、生徒が安心・充実した学校生活を送っていることがわかる。 ・早期発見、対応することは問題解決へつながることであるから今後も願っていた。また、講師によるいじめ防止につながる講演や定期的な生徒指導通達の発行は大切である。	・人権・同和教育担当者 ・生徒指導主事 ・教育相談主任 ・情報教育担当
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上		・輪番にて、教職員が生徒の自己の成長や夢につながるような講話を実施する。 ・自問清掃の意義や考え方を生徒集会や職員研修で伝え、周知徹底をはかる。		・輪番にて、教職員が「心の講話」を行い生徒の成長や夢につながるような講話の実施に取り組んだ。 ・自問清掃について職員研修を行ったり、生徒に向けて自問清掃への取り組みの周知を行ったが、十分な取り組みには至っていない。今後は、無言清掃からのやり直しを通して自問清掃へとつなげていく。	・「心の講話」が生徒の成長や夢につながっていると思う生徒は86%であり、講話内容を今後の生活に生かそうとしていることがわかる。 ・自問清掃が心の成長につながっていると回答した生徒は80%と目標にはやや届かなかった。さらなる心の成長のために、職員に対する研修を充実させたい。	・教師の講話は、生徒にとっては心に伝わりやすい。今後も続けてほしい。 ・取組みの方向性は良い。自問清掃が生徒の心の成長へとつながるように今後も取り組んでほしい。	A	・教師の講話は、生徒にとっては心に伝わりやすい。今後も続けてほしい。 ・取組みの方向性は良い。自問清掃が生徒の心の成長へとつながるように今後も取り組んでほしい。	・清掃担当 ・生徒会担当 ・生徒指導主事
	④「安全に関する資質・能力の育成」	④生徒の交通事故を0(ゼロ)にする		・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。		・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。	・年間を通しての自転車事故の発生件数は、昨年度より減少した。来年度以降も交通講話等を通して、交通事故防止の注意喚起や運転マナーの向上を目指さなければならない。	・年間を通しての自転車事故の発生件数は、昨年度より減少した。来年度以降も交通講話等を通して、交通事故防止の注意喚起や運転マナーの向上を目指さなければならない。	・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。	・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。	・交通安全教室を全校生徒を対象に開催し、事故の予防に努めさせる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・部活動休業日を徹底することや1回、定時退勤日である「ハッピーデー」を定めることで、業務効率化と時間外勤務時間の削減につながった。 ・職員に年間行事予定を提示し、意見の集約を行い学校行事の振り返りを行った。	B	・業務効率と時間外勤務時間の削減に取り組んでいると答えた教師が、79.5%はいるものの、十分ではなく今後とも引き続き行っていく必要がある。 ・これまでも年間行事を見直し、削減できるところは行ってきた。今後も適度な職場環境づくりを目指す。	・部活動も含めて教職員の勤務時間削減の取組は継続してほしい。 ・学校現場の多忙化の改善は、今後も大きな課題である。しかし、継続して多忙化解消への取組を行い、生徒の健全育成へと努力してほしい。	B	・部活動も含めて教職員の勤務時間削減の取組は継続してほしい。 ・学校現場の多忙化の改善は、今後も大きな課題である。しかし、継続して多忙化解消への取組を行い、生徒の健全育成へと努力してほしい。	・管理職 ・部活動担当 ・教務	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○校内研における学力向上の取り組み	○ともに学び合い、高め合う生徒の育成～授業と家庭学習をつなげる取組を通して～	○自分で課題を設定し、その課題解決に意欲的に取り組むことができる生徒の割合が70%以上。	B	・3つの部会である、「集団づくり部会」、「授業づくり部会」、「学習習慣づくり部会」の連携を図り、授業と家庭学習をつなげる取り組みの実践を行う。	B	・校内研究の充実のために、3つの部会を立ち上げ、互いに連携を図ることを通じて授業と家庭学習をつなげる取組の充実を図ることに取り組んだ。今後の課題として、生徒が主体的に家庭学習に取り組める課題の出し方等について考える。	・「自分で課題を設定し、その課題解決に意欲的に取り組むことができる」と回答した生徒が78%で、目標を達成できた。三部会が連携を図り、授業と家庭学習をつなげる取り組みの実践を行うことができた。	B	・校内研究の充実のために校内組織体制を十分に考えられていることは評価できる。 ・課題にあげられていた、生徒主体の家庭学習の在り方については、今後も改善が必要である。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員
	○「かけはしノート」と「家庭学習のステップ」の活用	○家庭学習の時間を1時間以上とすることができている生徒が、70%を上回る。	○「かけはしノート」と「家庭学習のステップ」を活用して、授業と家庭学習のつながりを深める工夫に取り組む。	B	・全職員の共通理解のもと、「かけはしノート」の活用を行うことで、授業と家庭学習のつながりをつくるように取り組んだ。今後はアンケート結果をもとに改善点を洗い出し、より良いものとしていきたい。	A	・「家庭学習の時間を1時間以上とすることができている」と回答した生徒が75.7%で目標を達成できた。「かけはしノート」と「家庭学習のステップ」を活用して、授業と家庭学習のつながりを深めることができた。	・「かけはしノート」は学校での学習と家庭学習をつなぐ手立てとして有効に働いている。 ・家庭学習の習慣化の成果が、テスト結果等に表れている。	A	・「かけはしノート」は学校での学習と家庭学習をつなぐ手立てとして有効に働いている。 ・家庭学習の習慣化の成果が、テスト結果等に表れている。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5	総合評価・ 次年度への展望	・本年度も教育目標と重点目標を念頭に置いた教育活動が展開されていると考える。生徒は「先生は、わかりやすい授業になるように、いろいろな工夫をしている」と93.0%（昨年比93.3%）が答えた。これは校内研究で「かけはしノート」と「家庭学習のステップ」を活用した取り組みの成果と考える。今後も活用法や様式の見直し等も図りながら、より良いものにしていきたい。「先生は、自分たち生徒からの相談にのりアドバイスや指導をしている」と84.0%（昨年比78.9%）が答えた。これは、生徒指導と教育相談およびカウンセラー等が連携することで、学校全体で生徒が相談しやすい環境づくりができたことと考える。「学校は、お子さんの理解に努め、支援や指導を行っている」と答えた保護者が83.1%、「お子さんは、自他を尊重する気持ちが育ってきている」と答えた保護者が78.7%であった。これは、生徒一人ひとり個に応じた指導をおこなってきたことに加え、教育活動全体を通して取り組んだ各種行事や道徳教育の充実および家庭との連携等の成果と考える。 ・次年度も今年度引き続き、開発的な生徒指導に努め、生徒の自己肯定感や自己有用感ももてるような学校運営を目指していきたい。
---	------------------	---